

One-Bo Acoustic 利用インタビュー

新日本印刷株式会社 様



新日本印刷株式会社
SHINNIHON PRINTING CO., LTD.



新日本印刷株式会社

新日本印刷株式会社

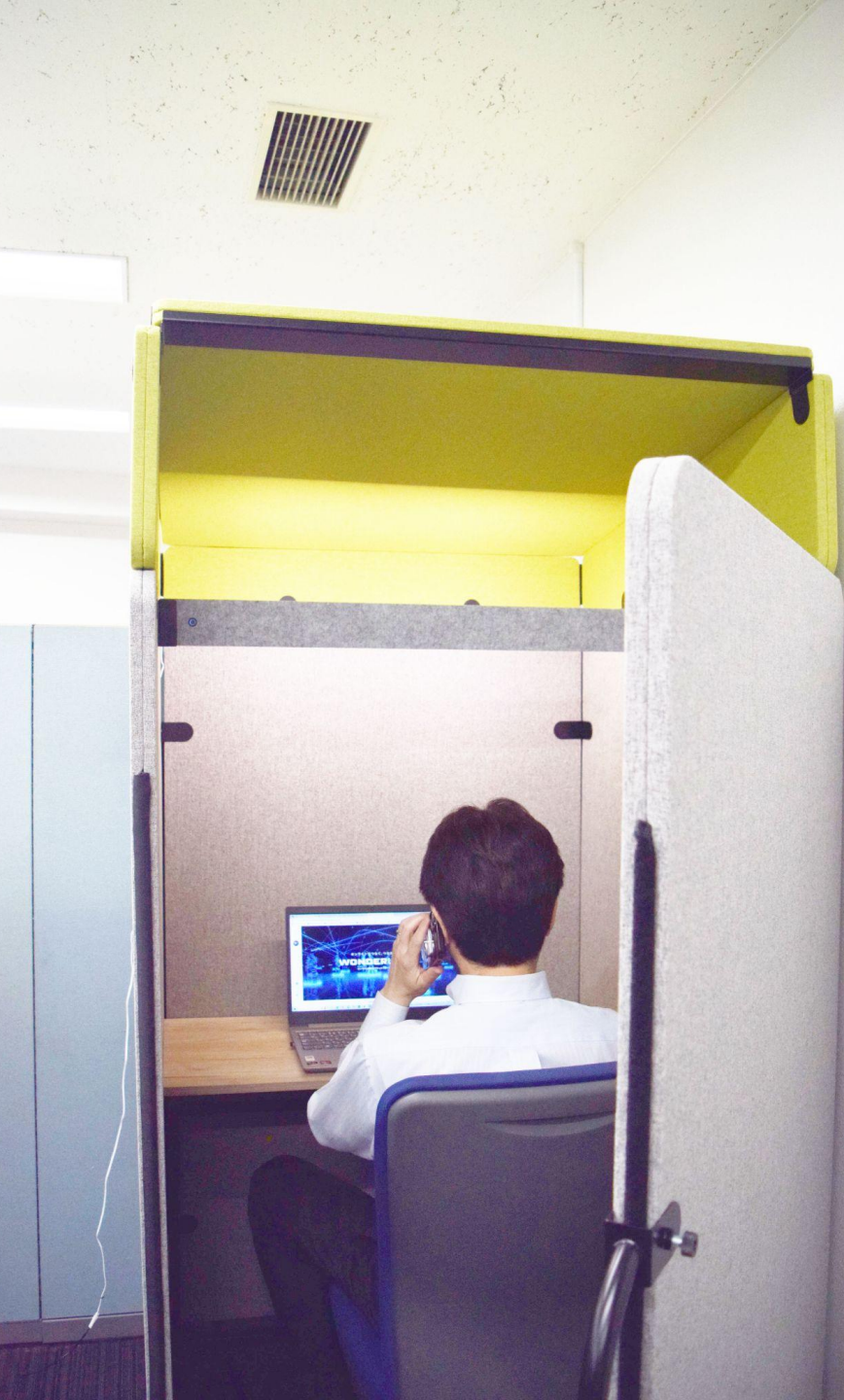
東京支社 東京支社長 佐野 友彦様

新日本印刷株式会社

新日本印刷株式会社は、愛知県名古屋市に本社を置く印刷会社です。カタログ・パンフレットといった紙媒体の印刷から、Webサイトの制作、ムービーコンテンツ・デジタルブックなどのデジタルコンテンツの制作と幅広く事業を行っています。岐阜県に印刷工場、愛知県に撮影スタジオを持ち、全工程自社生産、各部門ごとに専門資格を有したエキスパートが在籍することで低コスト・短納期・高品質を実現しています。更にコロナ禍にはオンライン展示会プラットフォーム「WONDERLINE」を開発し、事業内容は多岐に広がっています。

オフィスに合っていたことが導入の決め手

東京支社は営業業務をメインとしています。元々は外出も多かったのですが、コロナ期間を経てオンラインの商談、ミーティングが急増しました。事務所が広くないため、同じ室内では1人ずつしかオンライン商談を行えず、電話をするときは一度、事務所の外に出るなどの対応をしていたことに課題を感じていました。



駅などの公共スペースで個室ブースを見かけたことはありましたが、One-Boに出会うまではオフィスにも設置が出来るとは知りませんでした。様々な種類があるOne-Boシリーズの中で、パーティションタイプの「One-Bo Acoustic」を選んだ決め手は3つあります。1つ目はコンパクトな事務所に設置した時のサイズ感です。オフィスに置いた時の威圧感がないブースを希望していたので、理想的なサイズでした。2つ目は消防法の観点で導入のハードルが低かったことです。そして、3つ目は低コストで導入できたことです。今回は東京都の助成金も利用したため、かなり費用を抑え導入することが出来ました。導入ハードルが低く、サイズ感を重視して導入を決めました。

One-Bo Acousticの吸音性能の高さに驚き

主な利用用途としては、社外とのオンライン商談、社内のオンラインミーティング、電話対応などです。また、コロナ禍に開発したオンライン展示会プラットフォーム「WONDERLINE」では、地方のお客様とのオンライン商談が一気に増えました。コロナが落ち着き、商談もリアルが多くなった現在でも1日4~5回はOne-Boを利用しています。

導入前はサイズ感と導入のしやすさでパーティションタイプのOne-Bo Acousticを選択しましたが、実際に利用してみて思いのほか吸音ボードの性能が高かったことに驚きました。声も気にならなくなり、オフィス内でそれぞれの業務に集中することが出来るようになりました。また、デザインも気に入っています。シンプルで事務所に置いても圧迫感が無く、とても馴染んでいます。



継続する個室ブースの需要と未来の働き方

One-Bo Acousticをオフィスに導入することで、多くの業務改善に繋がりました。個人的には、オフィス内だけでなく、オフィスビルの一角や共用部にあればとても便利だと感じます。また、弊社では数人でオンラインミーティングに参加する機会があるため、複数人用ブースにもかなり需要があると思っています。コロナも終息に近づいた今、多様化する働き方に併せてオフィスや社会の在り方が変化しました。今後も一緒に働くメンバーとより良い働き方を模索していくのが楽しみです！